

2021年11月1日(月) 晴

今日から11月、大阪市内はおおむね晴れ。朝の時間でもさほど寒くはなく、日中はすごしやすい。衆院選の結果は、今日のessaisでも話したとおり、想定どおりで、この結果が「ポストコロナ」にどう作用してい

— 『いきの構造』 —

会話、対話というのは本当にシビアなもので、〈話せる〉人と話すと、話が深くも広くもなり、時間の質が高くなりますが、そうでない人とは、場合によっては精神的ストレスになり、時間をムダにした気持ちにもなります。

先日二人の自業家と会話をしている、話が「抽象度の高い思考や業務」に発展した時、流れて、『いきの構造』(九鬼周造)を紹介することになりました。二人ともこのことは初耳。

岩波文庫のこの本を読んだのはもうずいぶん前、1999年から2000年だったと思います。この頃は今のようには読書メモをとっていなかったのですが、独立してからの読書は、この頃が珠玉の時期。

珠玉なのは、何より人との出会い。新しく知り合った人との出会いと会話・対話が、『いきの構造』、「中井久夫」、その他の未知の知につながった。そうでなければ、たぶん、アプローチできなかった世界です。

知らない世界に近づくきっかけをもらったのは、本当によかった。あとは自分で拓いていきます。ネットのおかげで、関連する情報は得やすい。インフォメーションにあたり、インテリジェンスを自分で養う。

ところで、『いきの構造』の結びに著者は次のように書いています。読書の秋、この抽象的な概念にアプローチしてみるのも一考です。

「運命によって〈諦め〉を得た〈媚態〉が〈意気地〉の自由に生きるのが〈いき〉である」。

2021年11月7日(日) 立冬 晴

今日もよく晴れて暖かい一日だった。日中窓を全開していても寒くなかった。感覚的には10月、今日「立冬」。

— 〈話せる〉会 —

古代ギリシャの人たちは、未来は背後にあると考えたそうです。過去は目にみえる前方にあり、みえない未来は後方にある、back to the future…!と「堀田善衛」が書いていました。

東洋でいう「道」。ただ懸命に励んである時ふりむけばそこに道が出来ている、という言い方をします。ふり向いた先に未来があるのか、もとに戻して前方にあるのか、はたまた、全身をとりまいているのか。

そんなこんな話を1年ぶりに会った3人と今朝はなしていました。14年続くミーティングにお邪魔したのです。あえてSNSは使わず、基本的には毎月あって話す会。

14年もよく続いていると思いますが、たまにお邪魔したくなる場所に、そのワケがある。自由な語りであって、かつ、どんな話題も表面的な話し合いにならない。よく考え、よく話した感覚になるのです。

たっぷり2時間話して、「次回はちょっと早めに春頃に!」と先に席をたちました。「立冬」の朝のほどよくてつがくカフェ)でした。

2021年11月10日(水) 曇り

昨日午後から気温が低くなり、雨も降り始め、夜にまとまった雨。大阪市内は今朝も少しパラついた。風がつめたい。この時期らしい気温。

— 「学ぶ」独りの〈間〉—

ちょっとした偶然でも、自分なりに意味づけをして、何かしら次のアプローチにつなげる、個人的なく習わし)の一つです。考えてみれば、それが未来を拓いてきたといっても過言ではありません。

だから今年後半に「詩」、「心」、「数学」に、今さらながら触れることになったのは、“さて、どこへつながっていくかしら…”と来年に想いを馳せているところです。なにせ、もう今年も残りわずかですから。

それにしても、「学ぶ」ということは本当に大事、今さらながらの実感です。知識を得て、それを自分の中に落としこむ。その結果が「学び」になるのだと思いますが、それを獲得するまでの「学ぶ」が至って貴重。

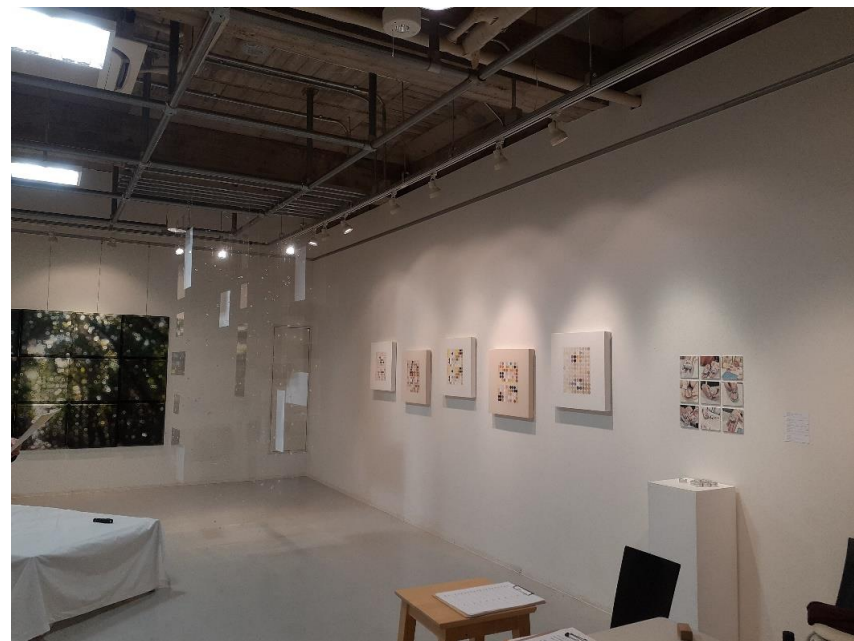
「学ぶ」は独りの作業、営み、〈間〉。これが珠玉の時間。脳が活性して、クリアになっている感覚がなんとも心地よい。それが体全体に響いて、ふと学生時代のような気分になるのもまた、人間ってすごい。

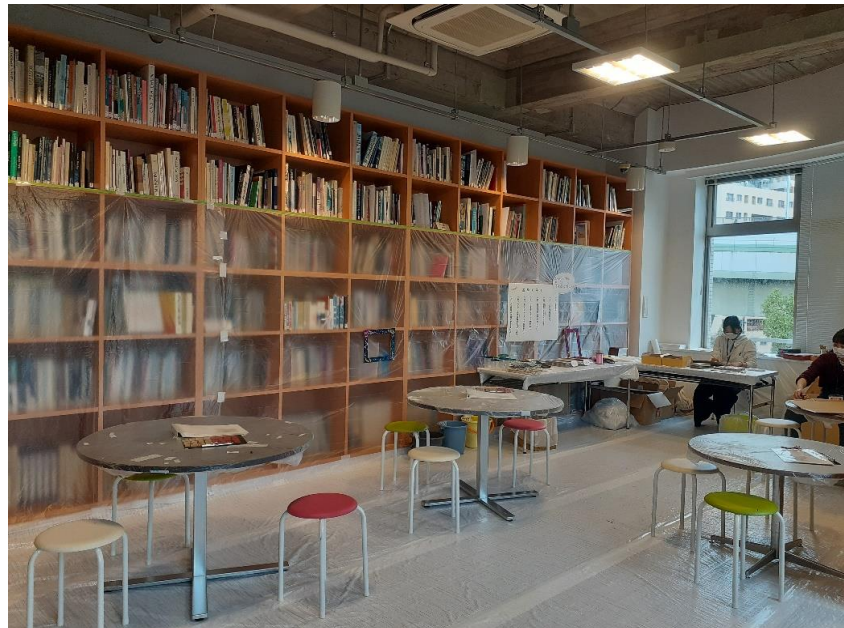
これから〈世に出よう〉とする人を支える仕事、とにかく精々学んで、自分なりの役目を果たす。それが自然なこと、無理はせず、でも努力はして、残りわずか今年も、くる年も、その次も…という今日この頃です。

2021年11月11日(木)

ホスピタルアート in ギャラリー Ⅲ

「今日のessais」でも話した展示会。シンプルな中にも深い奥行きを感じました。主催者と少し立ち話をしましたが、静かな闘志が伝わってきます。





2021年11月16日(火) 晴れ

今日も昨日と同じようなお天気。朝からよく晴れ、風もなく、穏やか。土曜日まではこんなお天気。イベントがそこかしこであるので、よい行楽日和になりそう。

－ 何を考える、考えない －

「その年になると、瞬き一回で一年が過ぎてる」と弟から言われたことがあります。ほんとにそんな感じがします、去年の11月からもう一年経ったなんて。すっかり北浜に慣れ、梅田の頃がずいぶん前のよう。

今年3月から始めた語りのessaisも8ヶ月になり、平日ほぼ毎日です。それなりのボリュームになってきました。毎朝の時点で話す内容は決まります。事前に考えていても、話したすと変わるので。

「原稿なしですか?!」と驚く方もいらっしゃると思いますが、原稿をつくっていったら、今のように毎日はやっていないだろうと思います。そもそも原稿どおりに話すということが大の苦手。

ですから、日頃から感じ、考えていることに、直近の出来事などや見聞きしたこと等がまざって、話している。すぐ側に誰かいれば、その人に話を切り出して会話になるような、そんな感じですよ。

音声のessaisで話していることは、日頃から〈考える〉があればこそと言えますが、ここで思い出すのが、会社員時代の友人たちと久しぶりに会った時に言われたことです。

何の話からだったか、「わたしが守りたいものの究極は、自分の精神性なんだと気づいた」と言うと、皆がキョトンとし、首をかしげ、一人が、「そんなことを考えるということは、何かあったん?」。

逆にキョトンとしましたが、皆はあまり考えないんだということがわかった。自分の仕事圏ではキョトンとされないけど、キョトンとされる世界もあるということを実感したのです。

いろいろな世界があります。どこを居場所にするかは自分しだい。

2021年11月20日(土) 早朝 深い部分月食をすぎて西の早朝に輝く満月



2021年11月24日(水) 晴れ

月曜の雨のあと、昨日からぐっと寒くなった。各局の予報士の人たちがさかんに注意喚起していたので、対策は万全。マフラーにこの冬初のコート。電車の中では少し暑いのはやっかいだけど。

— 『縁は異なるもの味なもの』 —

今しがた山陰に住む知人から電話、ひょっとして大阪に来ているのかしらと受けると、そうではなくて、共通の別の知人が大阪から仕事で行っていて昨日から一緒に観光し、いま温泉旅館にいるとのこと。

大阪から行っている知人とも少し話して、じゃまた大阪で!で電話を切ったのですが、人の縁とは不思議なものです。

いま山陰に住む知人は、もともと関東の人。京都府のビジネスコンペに応募し、2次選考を通過。その通過者向けセミナーの講師をして、その最前列にすわっていたのが、この人。

なぜかしら、すごく親しみを感じてもらい、話しかけられたのが、すべての始まり、もう10年以上前のことです。

コンペの最終日に会った時には、「京都に住むことにしました」と、なんとも軽やかな決断。まったく地縁もないとのこと、それならと、たまたまその時期にあったNPO関係の交流会に誘い、そこで引き合わせたのが、いま温泉旅館に一緒にいる大阪の知人。

それからずっと二人は交流が続き、先の電話でも「ほんとうに、これも縁としかいいようがありません」。

いやいや、それもこれも、互いに「出会い」を大切に育んできたからだと思えます。頻繁に会っているわけではないけど、時々思い出し、便りを絶やさず、機会があれば会って。

ここにも『いきの構造』の語る精神がありそう、大人な関係。『縁は異なるもの味なもの』。

2021年11月25日(木) 大阪城公園、用事のついでに少し紅葉散歩

